

市民が池田市の魅力をレポートする  
“市民記者”として、地元・池田の  
情報を発信します。

今月の市民記者  
仲田 敦子さん



昨年から市民記者に参加。リハビリ病院に勤務し、本を読むのが好き。池田の魅力を作り出すさまざまな人たちの声を伝えていきます。

取材先

## 池田分かち合いの会・ひかり

# 「優しい人が優しい人のまま生きられる社会」をめざして

コロナ禍で自死を選ぶ方が増えているといわれます。

「池田分かち合いの会・ひかり」さんの定例会を見学させていただきました。

代表の植村ヨシ子さんが、長女の摩尼<sup>マニ</sup>さんを21歳のとき自死で亡くされ、七回忌を終え、北摂に遺族の思いを分かち合う集まりがないことから、2018年5月に設立されました。第2土曜日に豊中、第3土曜日に池田で定例会があります。

初めて参加した方は緊張されていたようですが、皆さんが思いを込めて体験を語られることで、背中を押されたように話し始められました。

参加者の方が最初に気づいたのは、今の体調のことでした。それぞれ感じて



代表の植村ヨシ子さん

いることをやわらかな語り口で伝えます。すると初参加の方はうなずき「じゃあ、今まで持ってた、つまらん信念を廃棄するようにします。勇気をいただきました」と言われました。その後、笑い合う場面もありました。まだ話す気にはなれないけれど、聞くだけで癒やされるという方もいました。

皆さん、全身でお互いの話を聴いています。「アドバイスはしません。ご自分で気づくことです」と植村

さん。そのとおりの過程でした。

後日、会が主催された、虐待を専門とするルポライター・杉山春さんの講演会「自死は向き合える」に参加しました。

自死は「追いこまれた死」であり、所属感が失われ、誰かの負担になっていると思ふことが重なるという前提があるといわれています。科学的な知見をもとに、社会を変えていく必要性に



講演会のようす

ついて学びました。選択肢はある、多様な考え方に出席うのが大事だそうです。

植村さんたちが大切にされているのは「人と人はつながっていると感じてほしい」「一人で抱え込まない」です。皆さん悲しみ、苦しみを抱えておられるのに、包み込まれるような、あたたかな雰囲気での会でした。めざしている「優しい人が優しい人のまま生きられる社会」は、誰にとっても生きやすいはず。皆さんと一緒に考えていきたいです。

お問い合わせ

連絡先

池田分かち合いの会  
・ひかり  
☎080・3858・2954